

函館商況

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八

輸出入物產

支那貿易價

銀行

會社

勞力價付地所賣貸借家賃

114
A 3213



第一輸出物産概況

本港ヨリ各府縣下ニ向テ輸送スル物産ハ數多アリト
 雖ニ府縣下ヨリ輸入シ再ニ輸出スルモノ乃ケ米酒類
 砂糖木綿類園蔬菓實ノ如キハ輸入ノ部ニ概述スルヲ
 以テ此ニ畧シ今本道ノ出産ニ係ルモノヲ畧述スルニ
 第一ヲ各種ノ魚粕昆布塩麩トス其次ハ干蛇干鯉塩麩
 ニシテ身尺鯢鯨鮓塩麩魚油鹿皮之レニ次ク其産出
 鯢ハ西海岸ニシテ東海岸ハナキカ如シ鯨ハ東海岸茅
 部静内等ニ産スルヲ多シトス昆布ハ東海岸各地ニ産
 シ品位不同ナリト雖ニ日高十勝釧路根室ヲ良トス鯢
 ハ全道各地ニ産シ其良好ナルモノハ根室方面爾志別
 及ニ其近傍ナリ他ハ之ニ次ク蛇ハ西海岸渡島後志石

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

片抄信濃縣志

狩天塩北見等ナリ東海岸ハ産セズ鯉ハ渡島國茅部郡
ニ最モ多シ鱒ハ十島國擇捉郡全島及ヒ根室方面ヲ重
トス錫ハ西海岸津輕福島兩郡ニ鹿皮鹿角ハ日高十勝
膽振釧路札幌立具ハ膽振煎海嶺ハ渡島後志石狩天塩北
見日高膽振根室海嶺類生魚雜魚ト稱スルハ函館近傍
各地ニ産スルモノ多シ
然リ而シテ粕類胴鯉目白子等ハ皆肥料ニ供スルモ
ノニテ従前多クハ京坂及ヒ中國ヨリ和船入港買取ル
ヲ例トシ其直接ニ買取スルモノハ稀ニシテ多ク東京
商人ノ手ヲ經テ中國諸縣下ニ輸送スルヲ例トナセリ
六七年前ノ景況ハ東京近傍ニ輸送スルモノハ數百石
ニ過ス十ノ八九ハ北陸山陽南海諸道ニ珍重セラレ此
輸出ハ逐年増加シ頃々ハ九州地方ニ及スノ勢ナレハ

京坂中國等ノ巨商東京商人ノ手ヲ經ス直チニ當地ニ
來航買取ルモノ數十名ニ及ヒ又頃々福島山形兩縣下
近傍ノ養蚕家培桑ノ肥料ニ澁粕ヲ試用シ効能他ニ勝
ルヲ認了シ競テ魚粕ヲ要スルニ至レリト故ニ従前宮
城岩手青森邊ニ産スル魚粕ハ該縣下ニ向テ輸送セル
ヲ以テ東京地方ニ輸送スルモノヲ再々福島縣等ニ輸
送スルモノ不少右等ノ原因ヨリシテ聲價ヲ得近年輸
送ノ額増加シ昨十一年中ノ輸送高鯉紋粕百四拾貳萬
千貳百八貫目餘原價拾七萬八千三百六圓餘鯉紋粕五
拾萬六千三百貫目原價六萬九千五百貳拾八圓餘雜魚粕
拾六萬五百八拾七貫目餘原價貳拾六萬六千六圓餘胴
鯉外割鯉白子並目合セテ拾六萬五千五百拾九貫目原
價壹萬五千九百拾四圓餘ナリ本港ニシテ此ノ如シ全

用石史官

道各港ヨリ輸出ノ多額ナル知ルベキノミ而シテ此ノ
十分ノ六七ハ京坂及ヒ中國邊其他ハ東京近傍九州方
面ニ向テ輸送スルモノトス○昆布ハ種類數多アリ第
一長切花折折昆布第二元揃駄昆布胴結第三手繰早前
汐干若生等トス第一第二ノ種類ハ文那地方ニ最モ多
リ次ハ大坂九州及ヒ東京地方ニ向テ輸送ス蓋シ大坂
東京等ニ回送スル第三ノ種類ハ精製シテ市鄺ニ販賣
セルモノナリト昨十一年中内國各地ニ輸送ノ額ハ貳
万九千六百七拾九石餘ニシテ原價拾貳万九百九拾三
月餘ナリ○塩麩塩麩ハ重ニ東京ニ越前越後羽前羽後
之レニ次リ談魚ハ年々秋末ヨリ其年内ニ輸送スルモ
多シ翌年ニ越エレハ價格大ニ下落スル雖ヒ近來瀛船
并西洋形風帆船ノ航海盛ナルヲ以テ翌年ニ越エルモ

ノ少キニ至レリト云フ○干炮鰯煎海蕨ハ横濱及ヒ東
京ニ輸送スルモノ多シ蓋シ文那高人ハ販賣スルモノ
ナラシ○干鰯ハ東京横濱陸奥邊或ハ大阪下ノ關等ハ
輸送スルモノニテ近來ハ遠々或ニ至レリ○身尺鰯ハ
重ニ羽前羽後越前越後陸奥等ニテ東京横濱大阪ニ出
ルモノハ十ノ三四ニ過サルベシ是レ山國ニ文消多キ
ニヨルモノナラシ鹿皮鹿角ハ多ク東京横濱ニ鰯麩塩
魚鮭ノ子鰯ノ子干雜魚鰯ノ胃魚油海藻類ハ陸奥羽後
或ハ越後越中ニ輸送スルモノニシテ其他ニ出ルハ僅
々ナリ
右輸送品ハ素ヨリ各地不同ナリト雖ヒ其重ニ輸送ス
ルモノヲ掲ケタルモノナリ支那地方ハ輸送スルモノ
ハ支那貿易ノ部ニ載セテ此ニ畧ス

身尺類、胴類、雜類、穀類、
世目、干類、干類、日知、
鮭、魚油、鹿皮、鹿角、鹿爪、
美海荒、干鮑、昆布、布海苔

壹萬貳千六百九十九石壹合拾萬三千三百三拾四圓七拾錢

大小 豆 千九百貳拾三石六斗七十七百九拾貳圓拾四錢

鹽 鯽 四百拾八 本百三拾九圓三拾三錢

鹽 鯽 四百拾壹萬三千五百三拾六圓九拾錢

生 鮫 百拾壹 本三百五圓貳拾五錢

魚類、干鮑、鮑、干鮑、
布海苔、魚油、

鹿皮、鹿角、雜貨、不
詳貳千八百七拾五圓

魚類、鮑類、胴類、鹽類、
生類、干類、身尺類、鮭類、
昆布、鮑、鹿皮、硫黃、
雜魚

鹽 鯽 三千七拾七石六斗五合八拾六分五厘九拾貳圓拾錢

鹽 鯽 四千百九拾四本 十三百四拾壹圓四拾錢

鹽 鯽 三拾貳萬六千三百 三百五拾八圓七拾錢

價格合計 金四拾萬九千九百八拾圓八拾七錢壹厘

安達早太郎

藏田和七

仲榮助

右ハ昨十一年中物産賣買商人ノ一二ヲ掲クルモノニ
ニテ年々ノ商況ハ自家金融ノ如何ニ依テ賣買ノ増減
ヲ生スルハ商業上自然ノ勢ナレバ固ヨリ一概視スベ
カラス唯参考ニ供スルノミ今十一年中本港ヨリ各府
縣ノ向テ輸出シタル著名ナル物産ノ数量價格ヲ掲ク
ルモノ如シ

品目	数量	價格	品目	数量	價格
鮭紋粗	百四拾貳萬千貳百八拾貳圓五拾五厘	拾七萬八千三拾六圓七拾五錢壹厘	米	六千八百五拾四石壹斗八升	貳萬七千九百七拾五圓五拾貳錢四厘
鮭紋粗	五拾六千六百三拾五圓三拾五厘	六萬九千五百八拾八圓三錢壹厘	酒類	七百五拾五石八斗貳合五勺	四千七百貳拾三圓貳錢五厘
雜魚粗	拾六萬五千八百八拾七圓四角三拾四厘	貳萬六千四百六拾六圓四角四厘	鹽	三千三百拾六石四斗五升五合	五千五百拾九圓六拾七錢
洞類	拾萬四千七百七拾六圓六拾四角四厘	貳萬五千四百四拾七圓三拾七錢四厘	糖	貳萬八千三百三拾九圓貳百目	壹萬九千九拾五圓六拾五錢
辣類	九萬八千八百三拾四圓貳百三拾四厘	壹萬六千六百八拾六圓三拾九錢六厘	木綿類	三萬八千九百九拾貳圓八拾目	拾壹萬七千六拾五圓五拾錢
外割類	八、百四拾圓六拾錢	壹萬圓八拾錢	絹布類	九、百拾圓	貳萬八千九百八拾八圓

合計 金百拾壹萬八千百四拾六圓三拾四錢

外ニ價格不詳雜貨四百百貳拾貳個

此表ハ物考著名ナルモノヲ掲ケ類ニ隨テ編入ス表中雜紋布ハ此類ニ屬ス鱗迄ニ雜魚相ハ鯨鯨ヲ除ク外及今ハ鱈鯨鯨等ノ相昆布ニ屬ス折昆布沙干等各種ヲ合併ス干鯨ハ「捧鯨脊割背抜トモ」塩雜魚ハ「雜鯨鯨鯨及塩辛類迄合併ス」生魚ハ「鯨鯨鯨鯨等」從テ生魚ニテ輸出スルモノ「海藻ハ「布海苔銀杏草海苔若布等ノ類」米酒等ハ輸入表ニ載スル所ト同シ

参考

本條ニ述ル只目中鯨昆布ノ類方言解ニ難キモノアリ依テ左ニ畧述ス

昆布

元揃 根ヲ切捨壹本毎ニ元ト先トヲ揃テ末子造ルモノ

長切 四尺乃至三尺五六寸位ニ揃テ元ヲ切り捨束子造ルモノニテ四貫目ヲ以テ壹把トシ貳把ヲ合セテ壹駄トス

花折 大小ニヨリ三四枚乃至四五枚位ツヲ揃テ大ッニ折リ末ヲ切捨テ造上ル其造リ方ニ揃テ大

折昆布

中外ノ差アリテ大ハ壹把貳貫目小ハ壹貫目内外ヲ常トス

五六枚ヨリ拾貳三枚位ヲ揃テ末ノ方ヨリ卷キ折リ造ルモノニテ八午把乃至壹万把ヲ以テ百石トス

駄昆布

長切ト同様ノ造リ方ニシテ三尺乃至貳尺八寸位ニ仕立タルモノ駄送スルヲ以テ此松アリ只位ハ長切ヨリ稍下等ナリトス

胴結

駄昆布ト同様ニシテ下等只ヲ混シ入レ造ルモノ多シ

手繰

根元ト先ヨリ順ニ折リ初メ尖ニ至リ貳ツニ折リ造ルモノ

右ハ荷造リニヨリ名稱ヲ區別シタルモノニテ下ノ三頂ハ收獲季節ニ依テ名稱ヲ異ニス

通常ノ昆布ハ曰夏季土用ニ入り秋季迄ニ採扱スルモノトス此季節前後ノ少ハ品位異ナリ

沙干

上用前ニ採用シ土用入廿日前頃ニ終ル

早前

秋末ヨリ冬季ニ際シ採扱テ干上ル屋ヲ以テ竿前

用石更

トモ云フ多ク取具布ニ造ル

若生

(早前ト唱フルモノ七八分取獲ノ後採取スル)

右ノ外細布島田結等ノ稱呼アリ皆荷造リ方又ハ産地

及ニ收獲季節ニ依テ名稱ヲ異ニス

鯨

身尺

生鯨ヲ脊ト兩腹ト三ツニ割リ乾上ケ其脊ニ
當ルモノ百本ヲ以テ志把トス四拾四把ヲ志
個トス志個ノ量目凡拾三四貫目位ナリ

胴鯨

身尺ヲ取リタル鯨ノ兩腹ニ當ルモノニテ或
貫目ヲ以テ志トス

右ハ大畧ヲ掲ケタルモノニ付賣地ニ就カザレバ其詳

細ヲ知リ難シ

第二 輸入物産概況

函館港輸入ノ物産ハ逐年ニ増加スル勢アリ此レ偏ニ
戸口繁殖ニ依ルト雖モ従前兩越大坂等ヨリ日本形船
ニ依テ輸入スルモノ今日汽船航海ノ便利ヲ得テ次第
ニ之ニ搭載シ輸入増加ノ一原因ヲ為セリ

今本港輸入ノ物品ニ就テ其概況ヲ言ハハ最大ナルモ
ノハ米ナリ年々輸入ノ額拾万石ヨリ下ルコトナレ一
昨十年ハ拾万九千百七拾九石餘ニシテ原價三拾九万
五千四百貳拾四圓ナリシモ十一年ニハ十四万五千七
百九拾三石餘ニシテ原價六拾七万七千四百二拾五圓
餘ナリ之ニ次クモノハ酒類、魚類、及物類、金物類、塩、砂糖、
園蔬、菓實、繩、煙草、油類、蠟燭、綿、紙類等ニシテ又之ニ次
ク者ハ木材、麻、芋、醬油、味噌、書籍、藥種、粉類、陶器、漆、蠶、蠶、魚

網、類此ナリ

物産ノ輸出入ト需用ノ多寡ハ年々一定ス可ラスト雖
モ昨十一年ノ景況ニ就テ之ヲ概述スレハ米ハ越後陸
奥十分ノ七ニ居リ其三ハ羽前羽後越中越前ナリ他ハ
僅少ニシテ年々輸入一定ナラズ此高三分ノ一強ハ本
道各地へ輸送シ残り二分弱ハ函館近傍ノ需用ニ供給
ス而シテ東海岸ハ獨立營業ノ人民稀少ニシテ有力者
(所謂漁場)ノ漁場多ク其所有主ハ多ク本港若クハ福山
江差等ニ在テ諸品ヲ購入シ產地ニ輸送スルカ為メ員
數極メテ多額ナレトモ西海岸ハ直ニ商船ヨリ輸入ス
ルヲ例トス常米ニ止ラス以下各種ノ物品概テ此ノ如
シ米ノ相場ハ越後加賀津輕秋田庄内ノ類ヲ以テ立相
場トス其他ハ之ニ準シテ相場ヲ立ルモノトセリ越後

米ト稱スルモノハ新潟今町荒川出雲青等加賀米ト稱
スルハ越中伏木及ヒ敦賀水橋ノ類ヲ云フ津輕ハ青森
鱒ヶ澤十三ヶ泊等秋田ハ羽後本庄金浦能代土寄等ナ
リ庄内米ハ羽前酒田加茂ヨリ来ルモノヲ云フ一等ノ
色價ヲ得ルモノハ越後ニシテ加賀庄内津輕秋田ト順
次ニ等位ヲ定ムルヲ慣例トス○酒ハ羽前ノ大山ト越
後ノ二種ヲ最モ多トス蓋シ十分ノ八ニ居ルアルヘシ
残りノ二分ハ摂津和泉能登越前佐渡秋田等ナリ其伊
勢尾張羽前陸奥越中等アリト雖モ僅少ニシテ計筈ス
ルニ足ラス而シテ其過半ハ再ヒ當道各郡ニ輸送シ殊
ニ東海岸ヲ多トス西海岸各地ハ稍少シ各府縣へ再輸
出スルモノハ僅カニ百斤ノ四ニ過キス此輸送スルモ
ハ越後大山ノ二種ヲ重トシ大坂邊(大坂ト稱スルモ)ハ摂津伊丹池

田西ノ宮尾ケ奇兵庫泉明場ノ上等酒ハ大抵本港ニ費
等ニシテ噸最モ多シ
消スルモノトス燒酎モ亦酒數輸入ノ巨額ナルモノト
ス多クハ漁夫其他下等社會ノ飲料ニ供セリ十ノ八九
ハ越後ヨリ輸入シ其過半ヲ東西各地ニ輸出ス○魚類
干魚、生魚、鯉、鰯、塩魚等ヲ統稱ス中干魚ニ屬スルモノハ
東京仙臺南部秋田及ヒ常陸ヨリ生魚ハ青森縣下ヨリ
輸入スルモノ多シ再ヒ府縣へ輸出スルモノハ北海道
海産物ト混合シ其割合ヲ詳ニスルヲ待ス又陸奥ヨリ
當道類似ノ産物干鮑、煎海龍、鰯、昆布、貝類、又ハメ、粕等ノ
輸入スルモノアリ昨十一年ノ輸入ハ凡價格五万圓五
千圓乃至六万圓ナルヘシ○木綿類ハ各府縣ノ産出ヲ
大坂東京兩地ヨリ絹布ハ西京東京ヨリ皆混合輸入ス
ルモノニシテ亦綿四分一ハ東西各郡へ輸送シ又四

分ノ一ヲ青森秋田岩手ノ各縣下ニ再輸スルモノトス
絹布類ハ当地ニ消費スルト各郡ニ輸出スルモノト區
別詳カナラス衣服ノ仕立タルモノハ下等品ニシテ東
京ヨリ輸入シ雇人漁夫等ノ需用ニ充ルモノヲ重トス
然レ氏木綿絹及ヒ衣服仕立タルモノ等ハ西岸各港工
日本船ヲ以テ輸入シ或ハ小樽札幌辺ノ巨商等東京其
他ニ於テ直ニ仕入ヲ為スモノ夥多ナレハ本港ヨリ輸
送スルモノ東地及ヒ近傍各郡ニ止ルモノナラン陸送
スルモノ亦頗ル多カルヘシト虽モ今之ヲ調査スルヲ
待ス○金物類ノ内鉄物ハ大坂ヲ重ナリトス釜類ハ南
部鍋類ハ越中越後ヲ重トス其東京大坂等ヨリ輸スル
モノアレトモ其額稀少ナリ而シテ再ヒ當道各地ニ輸
送スルモノハ十分ノ二ニシテ府縣へ再出スルハ十分

ノ一ナリノ砂糖ハ従前大坂横濱敦賀下ノ関堺ヨリ輸
入スルト魚モ出產地ハ薩摩ヲ重トス横濱ヨリ来ル船
来品之ニ次クモノトセリ近來東京横濱ヨリ輸入スル
舶来砂糖ノ額十分ノ六ヲ占ムルニ至ル之ヲ當道各地
ニ輸送スルハ十分ノ三ニシテ府縣へ再出スルモノモ
亦十分ノ三ニ居レリ○塩ハ塩魚ヲ製スルニ必需ニシ
テ一切他ノ輸入ヲ仰クカ為メ輸入物産中最モ巨額ノ
部分トス其輸入地方ハ数ヶ所ナリト雖モ安藝ノ竹原
系寄周防三田尻立ヶ濱小松備前ノ兒島邑久ノ二郡等
ナリ而シテ其中輸入ノ多額ニシテ人ノ嗜好スルモノ
ハ竹原ナリ三田尻之ニ次ク終テ目形ノ多ヲ珍重シ赤
穂ノ如キ純白ナルモノハ敢テ嗜好セザル所ナリ○園
蔬果實ハ東京ヲ重トス之ニ次クモノハ菓實ハ東京及

越後ヨリ園蔬ハ青森縣下ヨリ輸入セリ再々之ヲ當道
各地ニ輸送スルモノ十分ノ一ニシテ府縣へ出ルモノ
ハ殆ント十分ノ三ニ居レリ○繩筵ハ當道産物ヲ荷造
スルニ次クベカラサルモノナレハ輸入極メテ多シ繩
ノ輸入地方ハ敦賀若狹津輕酒田越中佐渡等ニシテ敦
賀若狹最モ多シ其種類ハ中間大間ノ二種アリ又アバ
繩、拔穂繩ノ二種敦賀佐渡ヨリ輸入セリ此十分ノ二ハ
當道各地へ輸出シ之ヲ東西地ニ概別スレハ東海岸ハ
十ノ八ニ居リ十分ノ二ハ西海岸ノ地方ニ輸送スルモ
ノトス西海岸ニ少キ所以ハ前項ノ主趣アレバナリ府
縣ニ再出スルモノハ僅少ナリ筵ハ敦賀若狹越中津輕
佐渡ニシテ久保包、尺長等ノ名稱アリ秋田ヨリモ輸入
スルモノアレトモ少ナシ此十分ノ八ハ當道各地ニ再

七輸出スルモノナリ而シテ之ヲ東西地方ニ區別スレ
ハ十分ノ八ハ東海岸へ其二ハ西海岸ニ輸送スルモノ
トセリ種類ニ咎見ト稱スルモノアリ敦賀若狹ヨリ輸
入ス品位上等ニシテ尺長ト稱スルモノ之ニ次ク越中
筵ト稱スルモノ又之ニ次ク津輕筵ト稱スルモノアリ
本間中間ノ二種アリテ越中筵ニ比スレハ稍上等ニ位
ス佐渡筵ハ僅少ナリ今筵ト繩トノ当道各地ニ輸送ス
ル高ヲ比較スルニ繩ハ十分ノ二ニ居リ筵ハ十分ノ八
ニ居レリ此原因ヲ尋ルニ元来当地ヨリ輸出スルモノ
多クハ東海岸昆布ノ地方ニシテ採収ノ昆布ヲ掩蔽ス
ルニ使用シ之ヲ当地へ輸送スルニハ筵ヲ要セス昆布
ノ依輸送スルヲ以テ繩ヲ用ユルト稀少ナレバナリ
烟草ハ阿波ニ産スルモノ極メテ多ク十分ノ八ニ居レ

リ其他ハ大坂讃岐岐阜加賀水戸國府等ノ産ナリ又南
部ヨリホロギト稱スル下等ノ烟草ヲ輸入ス麓悪ニシテ
土人々ヲ嗜好セリ此輸入三分ノ一ハ東西各地ニ輸送
スルモノニシテ府縣ニ再出スルモノ二分五厘ニ居レ
リ○油ノ内石炭油ハ横濱東京ヨリシ種油ハ大坂ヲ重
トス其他水戸越前秋田等ヨリ輸入スルモノアレトモ
僅少ナリ十分ノ三再ヒ東西各地ニ輸送シ又十分ノ三
ハ府縣ニ再出スルモノナリ○蠟燭ハ新潟地方ヨリ輸
入スルモノヲ茅一トス敦賀之ニ次ク若狹又之ニ次ク
東京大坂ヨリ來ルモノアリ凡十分ノ二ハ東京各地へ
輸送府縣ニ再出スルモノハ僅々ナリ○綿ハ大坂堺ヲ
重トス判綿蒲團綿ノ種アリ種綿ハ輸入セス十分ノ四
ハ当道ニ費消其他十分ノ六分五厘ハ東西各地へ輸送

スルモノナリ然レトモ西海岸各地へ輸送スルモノハ
極テ僅少ナリ府縣へ輸出スル亦十分ノ二分五厘ナル
ヘシ此陸奥羽後ノ兩國ニ輸出スルモノ多ク以テナリ
○紙類ハ東京大坂土佐ヨリ輸入ス十分ノ二ハ東西各
地へ輸送シ又十分ノ二ハ府縣へ再出スルモノナリ從
前加賀半紙ト稱スルモノ多量ノ輸入アリ本港ノ需用
ハ大抵之ニ依頼セシカ近來絶テ輸入セス○木材類ハ
青森秋田岩手三縣下ノ各地ヨリ輸入ス板柱類モ亦同
シ而シテ木材ハ大抵本港市街ニ消費シ板柱類ハ十分
ノ三乃至ニラ近傍各郡ニ輸送ス当道ハ木材ニ富メリ
ト雖モ函館近傍ノ山林ハ從前伐採シ巨材ニ乏ク平々
近縣ノ輸入ヲ仰カサルヲ得ス○麻苧ハ本道各地ニ産
出スト虽モ未タ或大需用ヲ供スルヲ得ス多クハ大坂

越後ヨリ輸入セリ十分ノ三ハ東西各地へ輸送シ其府
縣ニ輸送スルモノハ僅少ナリ○醤油ノ輸入ハ越後ヲ
以テ最多トス南部津輕東京之ニ次ク其他拾餘ヶ所ア
リト虽モ之ヲ大別スレハ越後十分ノ八ニ居リ餘ノ各
地其ニナリ東西各地へ再出スルモノハ十分ノ三分五
厘ニシテ餘ハ当港ノ需用ニ供給ス○味噌ハ当港ニ製
造スルモノ稀ニアリト雖モ大抵輸入ヲ仰ク勢ナリ十
分ノ七八陸奥ノ産ニシテ津輕味噌ト稱シ頗ル色價ア
リ其三八南部秋田越後ノ産出ナリ津輕秋田ヲ一等ト
シ南部之ニ次ク此三種ヲ立相場トシ越後又之ニ次ク
其東西各地ニ輸送スルモノハ十分ノ四ニシテ其六分
ハ當地ノ支消ニ屬セリ府縣ニ輸送スルモノ僅少ニシ
テ計算スルニ足ラス○漁網ハ從前当道漁業ノ為ニ費

消スルモノ夥大ニシテ陸中水沢及越後ヨリ輸入スル
モノヲ重トス而シテ本港ヨリ悉皆東西各地ニ輸送ス
ルモノトス之ヲ大別スレハ東海岸ヘハ十分ノ八西海
岸ハ十分ノ二ナルヘシ西海岸ノ少キハ前各項ニ畧述
スル原因アレハナリ越後網ハ元来金引等ニテ製スル
カ其質堅牢ニシテ海水ニ耐ユ鯉鮭ノ建網ハ大抵之ヲ
使用シ水澤産ハ尋常ノ白苧ヲ以テ製スルモノナリト
云東地ノ綱引網ニハ多ク之ヲ用フ蓋柳茂ヲ貼用スル
カ為メニ柔軟ナル麻ヲ用ユルヲ良トスルナラシメ置
ハ輸入ノ地方數ヶ所アリ十分ノ五ハ越後ヨリス其四
ハ越中若狹ニシテ餘ノ一分ハ各地ヨリ輸入スルモノ
ナリ東西各地ニ輸送スルモノハ十分ノ二分五厘乃至
三分ニ居レリト雖モ多クハ西地各郡ハ極メテ僅少ナ

リトス該品ノ如クハ逐年戸口繁殖スルニ隨テ著シク
輸入ノ數ヲ増加セリ菓種ハ梨キ東京大坂ヨリ輸入ス
ルモノトセリ此内各地ニ輸送スルモノハ二十分
ノ一ニ過ギス書籍ハ近年學校ノ増設ニ由テ頗ニ輸
入ヲ増加ス蓋シ十分ノ五ハ函館ニ支消シ其他ハ渡島
國各郡ニ支消スルモノナラシメ雜穀ハ青森岩手兩縣
下ヨリ輸入スルモノ十ノ八九ニ居ルナルヘシ府縣ニ
再出スルモノハ当道物産ト混合スル為メ其詳ヲ知ル
得ス○漆器ハ能登ヲ重トス南部之ニ次々秋田津輕又
之ニ次ク本港近傍各郡ニ輸送シテ需用ニ供スルモノ
僅少ナリ○陶器ハ尾津下ノ関等ヨリ輸送スルモノト
セリ○家畜鳥獸ノ内島ハ多ク青森近傍ヨリ輸入シ牛
馬ハ南部ヲ重トス大抵本港ノ需用ニシテ近傍各郡ヘ

輸送スルモノハ六分ノ一ニ過キス。○粉類ハ東京ヲ重
トシ南部越後之ニ次ク。○硫黄ノ輸入ハ南部地方ヲ重
トス府縣ニ輸出スルモノハ十分ノ一ニ過キズ其概畧
ハ別表ニ記載セリ

輸入品ハ船改所調査ノ表紀ニ基キ其員數品目ヲ取捨
記載セルモノナリ然レトモ課税ノ産物ニ非ルヲ以テ
確實ノ調査ヲ得ス何トナレハ船舶入港ノ際船主ノ申
告ヲ根拠トスル迄ニシテ各種ノ物品ヲ合併包藏スル
一箇ノ荷物モニ品ト申告スレハセテ改査檢照スルコ
トナケレバナリ價格モ亦然リ且ツ当道各地ニ輸送ス
ル物品ノ割合ヲ概計スルモ船舶輸送ニ依テ大凡ノ目
的ヲ立ルモノニシテ近傍各郡へ馱送スルモノ亦多カル
ハシ衣類及物雜貨ノ如キハ札幌方面ニ至ル迄馱送ス

ルモノ少ナカラズ。○又物品ノ産地ハ専ラ現物ニ依テ
其大概ヲ記載スルモノナリ又別表中ニ輸入品ノ各府
縣ニ再出スルモノヲ概計セリト雖モ是亦当道出産物
ト混合スルモノナレバ確タル輸出ノ額ヲ得ル能ハス
假令ハ塩砂糖亦綿絹布衣服金物繩苳烟草種油蠟燭紙
類綿疊藥種書籍陶器漆器ノ如キハ一切府縣ノ輸入ヲ
仰クモノト見做スモ米穀酒類園蔬菓實木材板類味噌
醬油麻苧網硫黄紗類ハ当道ノ出産逐年増加シ府縣輸
入品ト混合シテ各地ニ輸出スルモノトス殊ニ海産物各
種ハ本道ノ出産ニ係ルヲ以テ府縣類似ノ輸入品再ヒ
府縣へ輸出スル高ト当道出産トヲ區別明詳スルハ頗
ル困難ナリ故ニ今之が比較ヲ為サス
今試ニ十一年中當廳管内醸造物ノ一ニテ以テ言フニ

渡島國函館ヨリ上磯龜田津輕五郡（浦志 樽山ニ）後志國
 壽都島收歌桑磯谷四郡（外四郡 未詳）膽振國山越ノ一郡ニテ
 清酒七百貳拾石餘濁酒貳百五拾石餘味噌千六百餘醬
 油ハ殆ント千貳百石ヲ製出セリ殊ニ醬油ノ如キハ頗
 ル邑價ラ有シ逐年需用ノ高ラ増加スル勢アリ本廳管
 下ハ近年醬油其他ノ醸造高大ヒニ増加スル景況ナレ
 バ漸々輸入ノ減スルヲ推知スベク又米穀類モ十年當
 廳管内ノ産出米ハ四千四百石餘大豆ハ三千五十七石
 餘小豆ハ千五百五拾石餘ナリ膽振國紋別地方ノ大小
 豆ハ品位上等産出夥多ニシテ近年東京其他ニ輸シ頗
 ル邑價アリ当港ノ商人之ヲ買取輸出スルモノ亦少シ
 トセス又漁網油本廳管下ニ官設製造所アリ次第ニ盛
 大ニ至カ故ニ數年ヲ出スシテ輸入ヲ仰ス充備スルハ

疑ヲ容サル所ナリ其他各種産物（耕）特産表アルヲ以テ此
 ニ贅セス

輸入品目ニ唐物類ノ項ヲ別記セス其詳ヲ知ルヲ得ズ
 ト雖モ各商賈ノ説ク所ニ依テ一ケ年輸入ノ大概ヲ計
 算セバ

金拾壹万圓	毛及綿織物類	内金七万圓	<small>他府縣下及当道各地 へ再出スルモノ</small>
金八万圓	帽子傘小間物類	内金四万圓	同上
金三万圓	酒類及食料品	内金壹万五千圓	同上
金貳万五千圓	石炭油	内金壹万貳千五百圓	同上
金壹万五千圓	砂糖類	内金六千圓	同上
金四万圓	鉄釘類	内金貳万圓	同上
金五万圓	船具類	内金壹万五千圓	同上
合計金三拾五万圓	内拾七万八千五百圓	他出	

雜貨	內貝類	產物類	似魚類	類海布	產昆布	海道錫	海干鮑	北奠海龍	鳥獸類	粉類	漆器	陶器
五拾萬三千九百七拾萬八拾目	千萬百七拾萬八拾目	四拾萬百七拾萬八拾目	三萬百七拾萬八拾目	九萬百七拾萬八拾目	六萬百七拾萬八拾目	八萬百七拾萬八拾目	四萬百七拾萬八拾目	六萬百七拾萬八拾目	五萬百七拾萬八拾目	三萬百七拾萬八拾目	六萬百七拾萬八拾目	六萬百七拾萬八拾目
三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘
八萬九千八百五拾萬八拾目	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘

硫磺	雜穀	書藉類	藥種	疊類	網類	麻苧	醬油	味增	木枋	板枋類	衣類	綿類
八千七百六拾五萬九千九百九拾	九千六百七拾九萬八千九百九拾	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘
七千九百七拾三萬四萬九千九百九拾	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘
七千九百七拾三萬四萬九千九百九拾	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	五萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	三萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	四萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	八萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘	六萬九千七百六拾四萬六拾五錢三厘

合計 貳百七十九千七百貳拾四圓八拾貳錢九厘 貳拾六千四百九百六拾七圓貳拾九錢四厘

外ニ價拾不詳雜貨
九千四百八十四拾七個

此表ハ物産ノ著名ナルモノノ品目ヲ場ケ類ニ隨テ編入ス。依令ハ酒類トアルハ清酒味醂酎
銘酒白酒金物類ハ鉄器銅器地錢釘及物等。魚類ハ干魚生魚鱈魚魚油。在明。麻
石炭油。パンキ。衣類ハ古着夜具等ノ類仕裁タルモノ。雜穀ハ米ヲ除ク。外大小麦大豆其他
部テノ穀物。粉類ハ。麦粉白玉粉蕎麥等。鳥獸類ハ雞鴨牛馬等。肉類モ此部ニ入ル
ニシテ品目外ノ物品ハ皆ノ雜貨中ニ入ル

第三 物價 附相場會所

物價ノ高低ヲ審査スルハ商業上ノ主要ノ點ニシテ開
港貿易ノ地ニ在テハ關マカラザルノ急務タリ此ヲ以
テ本使相場會所ヲ函館ニ設立シ會所ノ權限ヲ是ノ頭
取以下ノ諸役負ヲ撰定シ輸出物品ノ價格及商況ノ要
旨ヲ調査シ毎土曜日物價表ヲ印刷シテ普ク世上ニ頒
布セリ此ノ方法タルヤ函館市街中等以上ノ賤産ヲ有シ
商業ニ習熟スルモノ數十名ヲ撰定シ委任トナシ毎日
賣買ノ實數品位價格等ヲ詳悉申據セリ且ツ日々會
所書記ヲ分派シテ詳ニ商況ヲ探偵セリ製表ノ考案
ニ供スルガ為ノ物價商況ノ要旨ニ於テ蓋シ遺漏マル
トナシ今五ニ昨十一年七月ヨリ本年六月マテ滿十二
ヶ月間ノ物價表ニ準拠シ物産價格ノ高低ト低極ヲ表

示レ其下ニ十二月ノ平均ヲ掲記シテ參考ニ供ス

函館物價高低表

自明治十一年七月
至明治十一年六月

品目	高	低	平均價格
原岸昆布 百石	七百四拾貳圓	三百七拾圓	六百貳拾四圓八拾壹錢五厘
釧路同	七百七拾圓	三百三拾圓	五百七拾七圓七拾錢八厘
繩泉同	七百四拾圓	三百八拾圓	六百圓拾六錢七厘
浦川同	七百四拾圓	三百四拾圓	六百拾圓拾五錢三厘
槎似同	七百貳拾圓	三百三拾圓	六百拾五圓拾五錢
十勝同	六百六拾圓	貳百拾圓	四百五拾四圓
根室同	六百九拾圓	三百四拾圓	五百三拾貳圓
花吹同	六百圓	三百六拾圓	五百三拾貳圓五拾錢
三ッ石同	七百七拾六圓五拾錢	三百八拾壹圓	六百九拾壹圓七拾五錢
茅部手標同	三百四拾圓	百四拾圓	貳百拾壹圓〇七錢五厘

根田内同	同	四百八拾圓	百五拾圓	貳百七拾三圓三拾錢五厘
茅部手標前同	同	百九拾圓	百貳拾圓	百七拾壹圓
全九揃同 壹把二付	同	三拾壹錢	拾九錢	貳拾六錢
全花折同	同	拾貳錢	拾錢	拾壹錢
全折同	同	拾貳錢五厘	貳錢五厘	七錢六厘
上磯長切同 百石二付	同	百九拾圓	百三拾圓	百五拾圓
函館刻同 百斤二付	同	四圓九拾錢	三圓貳拾五錢	三圓九拾七錢五厘
三ッ石同	同	四圓九拾壹錢	貳圓八拾貳錢五厘	四圓貳拾錢
茅部鱈粉	同	四貫九百目	八貫五百目	五貫五百五拾四圓
戸井同	同	四貫九百五拾目	五貫六百目	五貫百七拾三厘
尻岸内同	同	五貫貳百目	五貫六百目	五貫四百八拾外
上磯同	同	五貫	六貫	五貫四百五拾壹外
三ッ石同	同	五貫	七貫五百目	五貫七百拾貳外

勇拂鱗和	樽舞全	根室鱗和	茅部同	厚岸小鱗	擇捉鱗同	福山同	茅部鱗高	江差胸鱗	同煎海草	小樽同	福山同	全干鮑
壹圓	同	同	同	同	同	同	同	同	百斤	同	同	同
五貫 百目	五貫 貳百目	五貫 貳百五十目	五貫 五百目	四貫 八百目	四貫 九百目	四貫 九百目	拾貫 五百目	五百 五拾圓	五拾貳圓 五拾錢	三拾 五圓	四拾 貳圓	貳拾 八圓
八貫 百目	七貫 三百目	五貫 七百目	八貫 八百四拾目	五貫 八百目	五貫 三百目	五貫 三百目	三拾 五貫目	四百 貳拾圓	貳拾壹圓 五拾錢	三拾 四圓	貳拾 九圓 八拾錢	貳拾 六圓 五拾錢
六貫 六拾 三目	六貫 貳百目	五貫 四百拾 三目	七貫 四拾 六目	五貫 三百 貳拾目	五貫 百目	五貫 六拾 六目	拾 七貫 九百 三拾目	四百 九拾 三圓 貳錢	三拾 六圓 貳錢 七厘	三拾 四圓 七拾 五錢	三拾 圓 五拾 六錢	貳拾 七圓 五拾 錢

江差干鮑	福島同	小樽同	吉岡鱒	福山同	福島同	江差同	小樽同	三石鹿皮	勇拂同	砂流同	浦川同	剗路同
同	同	同	同	同	同	同	同	壹圓	同	同	同	同
三拾 三圓 五拾 錢	三拾 貳圓	三拾 壹圓	拾 六圓 五拾 錢	拾 六圓 五拾 錢	拾 六圓 五拾 錢	拾 五圓 五拾 錢	拾 五圓 五拾 錢	壹圓 八拾 三錢 八厘	壹圓 九拾 壹錢	壹圓 九拾 壹錢	壹圓 九拾 壹錢	壹圓 八拾 三錢
貳拾 五圓	貳拾 五圓	貳拾 七圓	拾 四圓	拾 五圓 五拾 錢	拾 四圓 貳拾 錢	拾 四圓 貳拾 錢	拾 四圓 五拾 錢	壹圓 三拾 五錢	六拾 三錢	七拾 七錢	壹圓 拾 三錢	壹圓 貳拾 五錢
貳拾 九圓 拾 六錢 三厘	貳拾 八圓	貳拾 九圓	拾 五圓 三拾 三錢 三厘	拾 六圓	拾 五圓 五拾 錢	拾 五圓 六錢 七厘	拾 五圓	壹圓 六拾 九錢 五厘	壹圓 拾 壹錢 八厘	壹圓 貳拾 九錢	壹圓 五拾 五錢	壹圓 六拾 壹錢

三石鹿角	百斤	拾七圓五拾錢	貳圓五拾錢	拾四圓貳拾錢
砂流同	同	拾八圓八拾錢	拾六圓	拾七圓六拾錢
茅部魚油	四斤	五圓	三圓五拾錢	四圓三拾貳錢
尻岸內同	同	五圓	三圓九拾錢	四圓九拾九錢
茅部同	文	壹圓五拾錢	壹圓拾錢	壹圓三拾貳錢
石狩筋子	同	壹圓六拾錢	壹圓三拾五錢	壹圓四拾貳錢
三石同	同	壹圓五拾錢	壹圓三拾錢	壹圓三拾九錢
十勝同	同	壹圓五拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓三拾七錢
釧路同	同	壹圓五拾錢	壹圓三拾五錢	壹圓三拾九錢
三石解子	同	壹圓	五拾錢	六拾八錢
茅部鱧子	同	壹圓四拾錢	四拾錢	六拾貳錢
勇拂塩	壹圓	四本八分	八本壹分	六本八分
釧路同	同	三本三分	七本六分	五本九分

茅部同	同	五本	八本貳分五厘	六本貳分五厘
浦川同	同	六本七分	拾壹本	八本壹分
目梨同	同	六本五分八厘	拾壹本	八本三厘
石狩同	同	六本	七本壹分	六本三分六厘
樣似同	同	六本五分	拾四本	九本八分三厘
杖提鱧	壹斤	拾五本	貳拾四本	拾八本四分三厘
國後同	同	拾八本	貳拾六本	貳拾三本
茅部塩	同	拾本	貳拾六本三分	貳拾壹本四分八厘
臼尾同	同	拾本	五拾本	貳拾三本五分
茅部塩	同	貳本八分	三本五分	三本六厘
同塩	同	拾貳貫五百目	貳拾貳貫六百目	拾六貫九百貳拾六目
厚岸塩	同	貳貫	三貫七百目	貳貫九百目
茅部干鹽	同	貳貫八百目	三貫五百目	三貫百五拾七目

全千鮓	同	三貫八百目	四貫貳百目	三貫九百拾三匁
全千鮓	同	壹貫八百目	貳貫百目	壹貫九百五拾目
函館生鮓	壹匁百匁	三拾錢	貳拾五錢	貳拾七錢七厘
茅部鯉鮓	壹匁百匁	貳厘七毛	貳厘	貳厘四毛
福山身欠	拾匁百匁	貳圓	壹圓五拾錢	壹圓七拾七錢貳厘
江差同	同	貳圓	壹圓貳拾錢	壹圓六拾錢
全數ノ子	壹匁百匁	四貫貳百五拾目	五貫五百五拾目	四貫六百八拾四匁
小樽同	同	四貫貳百目	五貫三百目	四貫六百六拾七匁
茅部布海苔	同	四貫五百目	五貫	四貫七百三拾三匁
宝蘭丸賣	百枚百匁	八拾錢	八拾錢	八拾錢
茅部生鮓	壹匁百匁	拾五本	貳拾七本	拾九本三分三厘
全生大鮓	壹匁百匁	壹圓八拾錢	壹圓五拾錢	壹圓五拾七錢五厘
全小鮓	同	三錢	貳錢五厘	貳錢六厘

全生鮓	壹匁百匁	三拾錢	貳拾五錢	貳拾七錢五厘
百川生鮓	壹匁百匁	壹圓六拾錢	五拾五錢	壹圓三拾三錢八厘
茅部生鮓	壹匁百匁	拾八錢	拾錢	拾三錢八厘
石狩鮓雜話	壹匁百匁	三圓九拾八錢		
越後玄米	壹匁百匁	七圓貳拾五錢	六圓九拾五錢	七圓〇六錢八厘
津輕米	同	六圓八拾五錢五厘	五圓五拾錢	六圓拾四錢壹厘
秋田米	同	七圓五拾三錢	四圓七拾五錢	五圓八拾九錢三厘
加賀米	同	六圓七拾五錢	四圓八拾六錢	五圓九拾壹錢三厘
庄内米	同	六圓六拾貳錢	五圓拾錢七厘	六圓〇〇八厘
千歲印酒	壹匁百匁	八圓八拾錢	三圓九拾五錢	六圓六拾六錢
大山同	同	貳圓七拾五錢	九拾錢	貳圓拾貳錢八厘
越後同	同	貳圓拾五錢	八拾錢	壹圓六拾貳錢七厘
南部味噌	拾匁百匁	壹圓五拾五錢	壹圓貳拾錢	壹圓三拾六錢三厘

津輕味噌	十貫目八	壹圓七拾錢	壹圓五拾錢	壹圓六拾錢五厘
越後醬油	八升八 壹樽	八拾五錢	六拾錢	七拾錢
津輕同	同	壹圓貳拾錢	六拾五錢	九拾四錢三厘
竹原大俵塩	壹俵	七拾壹錢	四拾八錢	六拾四錢八厘
白砂糖	百斤	拾七圓五拾錢	拾三錢	拾六圓拾貳錢五厘
玉砂糖	同	拾五圓五拾錢	七圓八拾錢	拾貳圓七拾三錢
函館新酒	三樽	壹圓八拾錢	壹圓三拾五錢	壹圓六拾錢
敦賀蠟燭	六貫 壹百斤	九圓三拾錢	七圓五拾錢	八圓八拾七錢

第四 支那貿易

北海道物産中海外ニ輸出スルハ専ラ清國ニアリ而シテ其物品ハ昆布煎海炭干鮑鰯鹿角鹿茸鹿蹄皮類推茸鱈鱈干鱈石炭硫磺木材等ニシテ其巨額ヲ占ムル者ハ昆布煎海炭干鮑鰯ノ四品ナリ昨十一年七月ヨリ本年六月申迄ニ當テヨリ外國ニ輸送シタル物品ノ元價ハ六拾三萬四千六百五拾五圓拾八錢九厘ナリ此内清國ニ輸出シタルモノハ六拾壹萬五千七百四圓四拾六錢七厘ニシテ即總額ノ拾分ノ九分七厘許ニ居レリ開港已前ハ當道物産中昆布煎海炭干鮑ノ三品ヲ長崎ニ廻送シ清國人ニ販賣ヒント虫凡其項ハ物産ノ数量モ僅少ナリシガ開港以來清國人等當港ニ來リ貿易ヲ為セシヨリ逐次輸出ノ數増多シ以テ當今ノ景狀ニ至レリ今本邦支

月... 支那貿易

那貿易品ノ巨位ニ居レモノハ北海道ノ物産ニシテ其
物品数ニ産地ヲ尋レハ左ノ如シ

昆布 日高 十勝 釧路 根室

此出産高凡ク九万石

煎海鼠 渡嶋 後志 石狩 天塩 北見 日高

膽振 根室

此出産高凡ク七万六千四百拾斤

干鮑 渡嶋 後志 石狩 天塩 北見

此出産高凡ク貳拾七万五千八百三拾七斤

鰯 渡嶋 後志

此出産高凡ク貳拾五万貳百九拾貳斤

鹿角 日高 膽振 十勝 釧路

此出産高凡ク五万三千斤

推茸 日高 膽振 石狩 渡嶋 十勝

此出産高凡ク貳万五千五百斤

干鱈 渡嶋 後志 石狩 天塩 日高

此出産高凡ク百拾万八千九拾八斤

此物品ノ出産高ハ只其大概ヲ挙タルモノニシテ素ヨ
リ年々不同アリ且ツ試ニ之ヲ函館港輸出高ニ比スレ
バ其数量減少ナリト虽モ輸出高ハ前年ノ残品多クニ
依テ数量不同アリ出産高ト齟齬スルヲアルベシ然レ
モ清國貿易ノ開進ニ從ツテ産出モ亦年々増多ナル勢
アリ抑物産ヲ清國ニ輸送販賣スルノ方法ハ本使既ニ
明治五年ニ於テ其端緒ヲ開キ商賈数名ヲ結合シ資本
若干ヲ貸與シテ大ニ之ヲ奨励誘導セリ然ルニ結合セ
ルモノ其人ニ乏シク遂ニ好結果ヲ見ル能ハズシテ止

明治九年廣業商會開店以來內務省勸商局之ヲ管理
 本年ヨリ大藏省商務局其跡ヲ継キ終始主務官吏ヲ
 函館ニ出張セシメ本使ト協議督勵セシガ為メ漸ク我
 商賈ノ清國ニ物品ヲ輸送スルノ道ヲ開キ之ニ依テ當
 地商賈モ漸次清國ニ物品ヲ輸送シテ貿易ノ利益ヲ得
 ルニ至ル今昨年七月ヨリ本年六月迄内外商賈ノ當港
 ヲリ清國ニ輸送シタル物品ノ總額ヲ擧レハ尤ノ如
 シ

品名	数量	元	價
煎海鱒	拾万四千五百三拾九斤	六万五千七百五拾五圓四拾七錢七厘	
長昆布	一万四千五百零六斤	四拾万三千九拾三圓七錢七厘	
刻昆布	五拾六万六千百斤	二万五千五百拾六圓八拾錢	
干鮑	八万四千四百拾四斤	二万四千三百四拾圓。四錢	

錫	貳拾万。三百。四斤	貳万四千六百四拾五圓四拾四錢	
乾魚	貳万六千三百貳拾四斤	千貳百九拾三圓四拾五錢	
堅木材	八拾六石八斗三升	貳百貳拾圓。九錢	
柔木材	七百拾貳石七斗九升三拾分	六百。貳圓貳拾六錢六厘	
石炭	百三拾貳万三千八拾四斤	千八百九拾三圓拾貳錢	
鹿角	三万七千八百八拾七斤	四万九百拾六圓貳拾三錢	
鯨鱗	千七百貳拾貳斤	四百三拾四圓七拾四錢	
推茸	四百九拾四斤	百圓	
乾貝	三百八拾貳斤	三拾五圓拾六錢	
鹿皮	八百。七斤	六百貳拾圓	
硫黃	千。七斤	拾六圓拾貳錢貳厘	
鹿肉	壹箱	四圓	
薪	九千。四拾五本	百四拾八圓九拾三錢	

鹽魚	貳樽	五圓四拾六錢
帆立貝	百七拾九斤	貳拾壹圓三拾貳錢
鹿豆	五斤	五拾錢
鹿罐詰	拾八罐	貳圓七拾錢
毛皮	千七百貳拾四枚	七百拾九圓九拾錢
燻魚	貳拾四斤	壹圓七拾錢
魚骨	四拾七斤	五圓
鹿脚筋	千七百貳拾壹斤	五拾六圓五拾七錢五厘
鮮鱧	四千六百五拾斤	八拾八圓五拾錢
擢	貳本	五拾錢
醬油	三千七百七拾三斤	貳百五拾圓
衣類	壹箱	四拾貳圓六拾錢
漬唐金	五百拾九斤	八拾圓

卓椅子	貳	竹箱	貳拾三圓八錢五厘
翫物	拾三	竹箱	五圓

六拾貳萬。七百三拾八圓七拾六錢八厘
 内○印ハ北海道物産ニ非ス
 六拾壹萬九千八百四拾三圓。八錢三厘 北海道物産

右ノ如ク清國ニ輸送スル物品ニシテ北海道ノ物産ニ係ラサルモノハ五品ニシテ其元價ハ僅ニ八百九拾五圓余ナリ且前條輸送物品ノ内我商賈ノ手ニ出ルモノ三拾四萬貳百三拾四圓余ニシテ總元價ノ半以上ニ當リ然レモ此ノ輸送ハ主トシテ廣業商會ヨリ送ルモノニシテ未タ通常高賈ノ輸送ハ此ノ如キ巨額ヲ見ル能ハスト至モ昨年七月ヨリ本年六月迄當地商賈ヨリ廣

業商會ニ委託シテ清國ニ輸送シタル数左ノ如シ

長切昆布 百三拾四万六千四百八拾五斤

刻昆布 壹万六千五百五拾斤

煎海炭 五千九百貳拾貳斤

干鮑 六万。三百拾六斤

干鰯 三千。八拾八斤

干鱈 貳万六千四百拾七斤

之ヲ以テ見レハ商賈ハ漸次支那貿易ニ心ヲ用フルニ至レリ今其販賣價格ノ景況ヲ見シガ為メ此ノ物品中主要タル物ノ彼此ノ價格ヲ挙クレハ左ノ如シ

明治二十七年七月ヨリ 同去年六月迄平均	上海相場	上海洋銀相場	本邦洋銀相場	函館相場
昆布 一斤	三弗拾九錢四厘三毛	支那洋銀 七夕三分七厘余	六拾九夕六分九厘	貳圓六拾錢
煎海炭 一斤	四拾七弗五拾錢七厘余	右ニ同	右ニ同	四拾五圓拾錢八厘

干鮑 三拾弗三拾六錢三厘 右ニ同 貳拾九圓四拾壹錢六厘

鰯 拾六弗拾拾錢八厘 右ニ同 拾三圓拾五錢三厘

刻昆布 五弗七拾七錢三厘 右ニ同 四圓三拾六錢七厘

右ハ昨年七月ヨリ本年六月迄ヲ平均シタル價格ナリ此内價格ノ高低ハ各種一様ナラズト雖モ概シテ昨年七月ヨリ本年二月頃迄ハ凡ソ諸品ノ價格勢ヲ得テ益貿易ノ景氣ヲ増進シ加之洋銀ノ騰貴ニ際シ大ニ輸出品ノ價格ヲ得タルニヨリ内外ノ商賈競フテ物品ヲ輸出シタルニヨリ終ニ供給ヲシテ多キニ過サシメタルカ故隨フテ需用ノ減少ヲ來タシ逐次商機退縮シ當今ニ至迄未タ商機ヲ回復セズ是清國市場ニ物品充溢スルニ因ルモノ多ナルヘシ然レモ貿易ノ進退物價ノ昂低アルハ猶日ニ陰晴アルカ如クナレハ方今ノ景況ヲ

以ラ素ヨリ貿易ノ盛衰ヲ視定スヘカラサルモノニシ
テ一年間貿易ノ総額ニ至テハ前年度ヨリ減スルコト僅
ニ九千弍百五拾四圓七拾弍錢六厘ナリ然レモ十年
ニ於テハ支那ノ凶歉ニ依テ米穀ヲ輸出シタルモノ多
ク是非常ノ災厄ニ際シテ輸出ヲ為シタルモノニシテ
ホタテ之ヲ平時ノ輸出品ト為シ能ハサル故此ノ減額ヲ
以テ貿易ノ表兆ト云フベカラサルナリ素ヨリ本邦ノ
貿易ニ於テハ清國ハ一帶水ヲ隔ラタル比隣ノ國ニシ
テ其習俗嗜好モ稍近キガ故將來互ニ貨物ヲ交通シテ
益貿易ヲ増進スベシ既ニ近年他港ヨリ揚卷貝切干大
根八角豆等ノ類逐次新々ニ輸出ニ適スルヲ得タリ北
海道ニ於テモ此項乾牡蠣ヲ製シ之ヲ清國ニ輸出セシ
トス該品ノ如キハ清國ノ最嗜好スルモノナレハ其需

用ニ適スルヤ疑フ容レサルナリ且此海道ニハ木材之
シカラサルカ故將來之ヲ輸出セシテ謀リ逐次之ヲ
輸送セリ兩國ノ交通愈密ナレハ互ニ其嗜好ヲ察知シ有
無相交易シテ其利益ヲ起スニ至ルベシ就中此海道ノ
如キハホタテ物産ノ製出ヲ尽サレ地ナルカ故將來亦
輸出ニ適スルモノヲ起スニ至ルベキナリ

明治二十五年八月

第五

銀行營業ノ概況

函館銀行ノ開業ハ三井銀行ヲ嚆矢トス同支店ハ従前
三井組ト稱シ本使ノ現金出納ヲ負擔セシノ明治六年
始テ支店ヲ設置セリ本年一月ニ至テ第百十三國立銀
行ノ開業アリ次テ五月三日第百十四銀行支店ノ開業
アリ第百四十九銀行ハ既ニ許可ヲ經本店設置ノ地位
ヲトセリト雖モ未タ開業セズ現ニ營業スルモノハ三
銀行トス而シテ本年一月以來銀行營業ノ景況ヲ見ル
ニ函館ハ勿論近傍各郡ニ及ボシタル影響ハ實ニ思想
ノ外ニ出タルモノアリ此他ナシ従前人民金融ノ便利
ヲ得ザリシモ銀行ノ設立以來利子ノ低廉ナルト荷為
替等ノ便利ヲ了解シ自由ニ金融ヲ得テ物産ヲ賣買ス

ルガ故ナリ而シテ金融ノ便ヲ得自由ニ物産ヲ賣買ス
レバ各自競争スルガ為メ當道海産物價格次第ニ騰貴
スルハ勢、己ム可ラザルモノニシテ本年鯉換漸ク了
ルニ際シ函館三銀行金員乏乏ヲ告クルヲ以テ知ル可
シ
従前銀行ノ設立ナキヤ當港ノ慣習貸金利息ハ一定ナ
ラズト雖モ概テ年ニ貳割乃至貳割五分ノ間ニ出入シ
又加之手数料ヲ収得スル弊習アリ相對ニテ隱ニ荷為
替類似ノ貸借法ヲナスモノハ貳分五厘ヲ以テ通常ト
セリ然ルニ本年ニ至リ貸金ノ利息ハ壹割貳分位ニ下
落シ為換ノ如キハ跡ヲ絶テ總ニ存スルモ壹分位マテ
ニ低減セリ此ニ従来ノ慣例一二ヲ擧ケレバ東京大坂
其他各地ノ商人當港ニ輻湊シテ物産ヲ買取ハ其物品

ニ相當スル金員ヲ得サレハ之ヲ買取ヲ得ス僅々ノ價
格ニ眼ヲ注キ躊躇スルヲ免レス當今銀行開業アルガ
為メ此等ノ概念ナク偏ニ銀行ニ依頼シテ金員ヲ融通
セリ又々日本形船ハ各地ヨリ需用ノ物品ヲ積載シ現
物交換ヲナシ又ハ其物品ヲ賣却シ携帶スル金員ヲ從
セテ物産ヲ買去ルモノ夥多ナリノ相等ノ大坂以西ニ
輸送スルハ大抵此方法ニ依ルモノトモ現今ハ皆
銀行ノ為替ニ依頼セリ又當地商人ヨリ大坂ニ直輸ス
ルモノモ従来僅々相場ノ高低ヲ考ヘ滞坂スルヲ得サ
ルガ為メ往々抛賣スル景況アリシモ今日ハ荷物ヲ預
ケ仕入品ニ要スル金員ヲ借受テ帰港シ相場ノ機會ヲ
見テ賣却スルモノト為ル右等ノ數頂ヨリ物産荷為換
ハ頗ル妥化ニシテ一ニ銀行ニ依頼スルニ至シリ今此

三銀行ノ營業ノ景况ヲ概述スレバ第百十三銀行ハ
 頭取以下株主大抵當地ノ商賈ニシテ從來信用ヲ得タ
 ルモノ故營業上ノ勢力ヲ得テ設立前ノ思想トハ全ク
 反對ノ點ニ出タリ初メ株主ヲ募ルニ當リ拾萬圓ヲ目
 的トセシニ或ハ動議ヲ起スモノアリ更ニ拾五萬圓ヲ
 増額シ三拾萬圓トナサンニテ主張セシモ金負運轉ノ
 充分ナラサルヲ概念遂ニ五萬圓ノ増額ニ止タリシ
 ガ開業以來金負ノ運轉思想ノ外ニ出タルユハ再々拾
 萬圓ノ増額ヲ議スルニ至リ而シテ此際旧株主ノ外當
 卷福山及ヒ東京大坂ノ商人等株主ニ加ラレニテ希
 望スルモノ頗ル多シト雖モ先ツ旧株主ニテ拾萬圓ヲ
 募リタルニ忽チ金員出未シ増額ヲ請願セリ他ノ希望
 者ヲ拒絶スルモノ若干名其金額ハ殆ント貳拾五萬圓

ノ多キニ至レリト云フ本年六月中ノ實際ヲ見ルニ外
 出スル金員総額ハ貳拾壹萬四千八百三拾円餘入金ハ
 拾八萬五千貳百六拾七円餘ニ及ハリト本年開業以來
 ノ概況ハ左ノ如シ

十二年一月六日ヨリ六月三十日迄本店營業日數
 除却シテ百四十七日間

○為換并電信為換

七萬百八拾七圓五拾壹錢七厘	本店ヨリ支店ニ向 タル為換
貳千八百五拾圓	本店ヨリ支店ニ向 タル電信為換
壹萬八千貳百九拾八圓四錢九厘	支店ヨリ本店ニ向 タル為換
貳萬三千百五拾圓	支店ヨリ本店ニ向 タル電信為換
千圓	當銀行ヨリ大坂第 十三銀行ニ向タル分
貳千圓	大坂第十三銀行ヨリ 當銀行ニ向タル分

月五...

九千圓

大坂第十三銀行ヨリ
当行ハ向々此分

合計拾貳万六千四百八拾五圓五拾六錢六厘

○荷為換

六万五千百四拾圓

本店ヨリ支店ハ
向々此分

六千五百貳拾圓

支店ヨリ本店ハ
向々此分

合計七万千六百六拾圓

○諸預金

貳拾五万九千貳百拾四圓五拾五錢四厘

内

拾五万六千。六拾壹圓五拾五錢四厘

松渡八五圓

差引

拾万三千百五拾三圓

本店預リ高

○貸付金

貳拾貳万七千四拾七圓五拾五錢

内

拾壹万六千七百貳拾圓

返金

差引

拾壹万。三百貳拾七圓五拾五錢 現金貸付額

以上等々ル所ノ外種々ノ出入金額ヲ加ハ出納ヲ總計
スレバ

入百拾八万九千五百六拾三圓七拾九錢七厘

出百拾貳万六千四百貳拾九圓七拾七錢

第四拾四銀行支店ハ開業日幾ク随テ著シキ營業ノ景

況ヲ報告スルニ足ラズト雖モ本年五月物産荷為換繁
忙ノ期節ニ致シ開業セシテ以テ意外ニ金買ヲ運轉セ
リト云フ其荷為換ヲ送レル地方ハ際ホ十分ノ五ハ大
坂其三ハ東京其一分ハ四日市其零五ハ新瀉ナリ而シ
テ札幌小樽両所ノ支店函館ヨリ数十日小樽ハ函館ヨリ三
十五日札幌後レテ開店ニ営業上ノ報告スバキナシ然
ハ四日市後レテ開店ニ営業上ノ報告スバキナシ然
レテ小樽ハ海産輸出総額全道中函館ニ亞クベキ要口
ニシテ将来荷為換其他營業ノ目的アリ札幌ハ海産物
ノ輸出ナク其營業目的為換ノ一點ナルバシ又魯頌コ
ルサコフ、ウレエニコタニニ出張店ヲ設置ス本年ハ簡
易ヲ主トシ營業ヲ試験スルモノナリト云フ近日ノ報
告ニ依レハ将来着手ニ目的アリト云フ又渡島國福山
江差ノ兩地及ヒ後志國壽都ニ出張店ヲ設置セリト

願請セリ當港開店以來ノ金買出入ハ左ノ如シ

五月三日開業營業日數休業日五十五日

入金三拾五万九千九百七拾貳圓〇六錢八厘

出金貳拾六万九千七百八拾壹圓九拾貳錢

右ノ内譯詳細ハ今之ヲ知ルヲ得スト雖モ該行ハ本店
ヲ東京ニ設置シ金澤小田原四日市名古屋新瀉ニ支店
ヲ置キ武藏國府中驛越後ノ直江津ニ出張店ヲ置キ別
ニ東京大坂京都神奈川福島石川靜岡高知山形秋田枋
木愛媛ノ各縣下十九ノ銀行本支店ト訂約シ振出し手
形引換ノ便法ヲ設ケタルヲ以テ將來營業ノ進歩ニ從
ヒ民力ニ裨益スルノ利知スベカラス
三井銀行ハ尋常為換荷為換及ヒ貨物
一切取扱ハスハ頗ル多額ナリ
數年來該行ノ信用ヲ得タルト各府縣下ニ出店アルガ

故ナレ可シ昨十一年一月ヨリ十二月迄及本年一月ヨ
 リ六月迄本分出張店ノ景況ヲ拳クレバ左ノ如シ
 十一年一月ヨリ十二月迄

入
 金貳拾三万三千六百四拾五圓四拾九錢三重六毛
 洋銀貳万貳千貳百六弗貳拾六セント

内譯

金拾壹万七千四百五圓拾四錢貳厘六毛
 洋銀貳万貳千貳百六弗貳拾六セント
 取組高
 当地ニ於テ請取東京
 金貳万四千四百七拾圓貳拾四錢五厘
 取組高
 同上大坂ノ
 金貳千四百七拾六圓
 取組高
 同上西京ノ
 金壹万九千貳百拾四圓貳拾九錢五厘
 取組高
 同上横濱ノ
 金貳千三百五拾圓七拾貳錢
 取組高
 同上神戸ノ
 金貳千貳百九拾壹圓八拾五錢壹厘
 取組高
 同上宮城ノ

出
 金貳万七千貳百九拾貳圓四拾八錢五厘^上
 取組高
 同上青森ノ
 金四万千四百四拾圓七拾五錢九厘五毛
 取組高
 同上敦賀、長崎、山口、
 佐賀、塩田、宮津、園部、
 大津、津、下ノ関、松坂、和
 哥山、水戸、四日市、山
 田、小田、原、岐阜、名百
 屋、新潟、弘前、札幌、等
 取組高
 金百六拾八万四千九百拾三圓五拾五錢八厘五毛
 洋銀六千五百四拾貳弗拾四セント

内譯

金六拾八万三千三百三拾圓八拾錢七厘
 東京ヨリ振込當地
 洋銀六千五百四拾貳弗拾四セント
 三於テ取渡高
 金拾貳万三千三百三拾圓四拾九錢五厘
 大坂ヨリ同上
 金三万七千七百五圓
 西京ヨリ同上
 金六拾八万六千三拾五圓六拾貳錢
 横濱ヨリ同上

金四万五千七百五拾七圓六拾貳錢七厘

〔神戸ヨリ同上〕

金五千四百五拾圓拾五錢三厘

〔島根ヨリ同上〕

金壹万三千四百五拾三圓零錢七厘

〔宮城ヨリ同上〕

金壹万三千七拾五圓三拾七錢九厘

〔青森ヨリ同上〕

金八万七千七拾五圓六錢五毛

〔各地ヨリ振込当
地取扱高〕

十二年一月ヨリ六月迄

入 金七万九千三百三拾八圓九拾七錢八厘

〔於当地請取各地ノ
取組高〕

出 金三拾三万五千五百六拾四圓五拾五錢壹厘五毛

〔各地ヨリ振込当
地取扱高〕

内譯ハ畧ス大抵十一年中ノ地名ト同一ナリ

第六 會社

廣業商會

廣業商會ハ明治九年十月當地ニ開店シ其事業ノ本旨
トスル所ハ清國貿易ヲ擴張シ其門路ヲ開テ商賈ヲ誘
導各商ノ委託販賣ヲ受ケ荷為換通常為換ヲ貸出シ專
ラ支那貿易ヲ開通シテ其便宜ヲ謀ルハキ一ヲ主要ト
セリ然レモ開店以來稍ク二年餘ニシテ其歲月モ及レ
カラサルカ故未タ充分支那貿易ヲ開進ナラシムルニ
至ラスト雖昔日ヲ遡考スレバ從來當港海外貿易ハ總
テ外商ノ掌握スル所トナリ當地居留ノ清商等盡ク其
物品ヲ輸送シテ貿易ノ利益ヲ獨占シ開通社<sup>北海道物
産賣捌ノ</sup>
為上^{立スル}海ニ設^モ閉鎖以來我人民ハ曾テ清國ニ通商スルモ
ノナキカ故物品ノ價直モ常ニ外人ノ手ニ在ルカ如ク

して良價を得ル。少ナカリシモ當今に至テハ清國輸送ノ物品ハ過半廣業商會ノ手ニ屬スルニ至リ且當地等ノ商賈漸次清國貿易ノ念ヲ起生シ該商會ニ物品ヲ委託シテ上海香港ニ輸送販賣スルモノ又少カラス其數支那貿易ノ且北海道人民ハ昆布煎海龍干鮑鰯等ヲ收獲スル資與シ其物品ヲ領収スルノ法ヲ開キシニ人民漸ク其便利ヲ了解シ貸與高年々増加シ隨テ領収ノ物品モ亦増殖スルニ至レリ且當港ノ支那貿易ハ主トシテ上海地方ニ適用ノ品ナルカ故同港ニ輸送スルモノ最モ多シ然ルニ昨年香港ニ支店ヲ設立シ將來同港ハモ逐次物品ヲ輸送シテ益貿易ヲ開達セン。一ヲ謀ルト雖モ開店以來日尚淺キカ故未タ著ルシキ事業ヲ記スルニ至ラズ元來北海道ノ物産中干鮑干鰹ノ如キハ專

ラ香港地方ニ適スルモノナレハ今後愈交通ヲ増進セハ物品ノ輸出モ逐次増殖スルニ至ルヤレ此ノ如キ景収ナルカ故當港支那貿易ノ面目ハ殆ント昔日ト一變シテ彼我ノ商賈相競争スル勢アリ將來北海道物産ノ價格ヲ保全シ愈商機ヲ活發ナラシメ貿易ノ盛昌ヲ致スハ疑ヲ容レザル所ナリ今十一年七月ヨリ十二年六月迄營業ノ概畧ヲ擧ケレハ左ノ如シ

- 一金四拾八万五千貳拾貳圓拾錢六厘
明治十年七月ヨリ十二年六月迄清國ノ輸送物品販賣代金
- 一金三万四千八百四拾五圓
同當地ノ商人等ヨリ清國ノ委託ト受タル物品ノ荷為換代金
- 一金拾六万九千九百六拾貳圓七拾錢
同北海道人民ノ資本貸付金
- 一金三万三千貳百六拾八圓拾五錢五厘
同開拓使稅品其他買入物品代金
- 一金八万五百三拾八圓貳拾七錢三厘
同内國ニテ物品販賣代金
- 一金八万三百四拾三圓五拾八錢九厘
同當地ノ商人等ヨリ清國ノ委託ト受タル販賣物品代金

一金七十三百九拾八圓六拾壹錢六厘

同当地商人等ノ委託ヲ受タル内
國販賣物品代金

江湖組

江湖組ノ本店ハ東京ニ在リ本年二月支店ヲ當 港ニ設
立セリ其營業ハ荷為換金ノ融通ヲ主トシ傍ラ運輸ノ
取扱ヲナシ又荷為換附ノ貨物ヲ賣買シ或ハ委託ヲ受
テ諸物品ノ買入ヲ為スヲ以テ營業トス開店以來日尚
残ク資本薄弱ナルヲ以テ營業上著シキ景況ヲ記スバ
キナレ本年二月廿四日ヨリ六月ニ至ル營業ノ概畧ヲ
舉レバ尤ノ如シ

八五四万三千圓餘

東京横濱行荷為換金高

八五貳万貳千百圓

東京横濱ヨリ函館ニ荷為換金高

八五四千百圓餘

抵当貸金

金九千圓餘

通常為換

金三千貳百五拾圓

小樽福山ニ持出シ為換金高

右ノ景況ニ依レハ現今營業ノ視ルハキモノナシト雖
モ其実ヲ探レバ不日開業スル第百四拾九銀行ハ該組
ト連絡シ金融ノ便宜ヲ謀ル訂約アリト聞ク果シテ然
レハ將來營業ノ面目ヲ改ルベシ
右ノ外北洋組ナルモノアリト雖モ 船運輸ノ周 資本
極テ薄弱ニシテ永續ノ目的ナク大岸組 荷為換通常為
ハ委託販賣ハ未タ開業セズ三菱社運漕社ハ運輸ノ頂
ニ運フルヲ以テ此ニ贅セズ

出 三百〇九 入 三百貳十六 明治十一年

右ニ就テ之ヲ見レハ明治十年汽船ノ出入ハ九年ヨリ減少セシガ如シト雖モ十年ハ西南事變ノ為汽船ノ往復極メテ少ナク例年ト比較スルヲ得ス若シ九年ト十一年ト比較セバ十一年ニ於テ出船ハ百三十一入船ハ百貳十三ヲ増加セリ風帆船ヲ比較スルニ九年ヨリ十年ノ多キ丁出船ハ八十四入船ハ八十七ニシテ若シ九年ヲ以テ十一年ニ對照セバ十一年ノ多キ丁出船ハ貳百〇七入船ハ貳百貳十八ナリ如此年々航海度數ヲ増加シ運輸ノ便利ヲ得ルガ故ニ四方氣脈ノ流通スル景況ハ昔日ノ比ニ非ズ今此ニ運漕社ト三菱社ノ概略掲ケレハ

明治自十一年一月開拓使付屬船運漕社々船及扱船出帆數
扱船トハ他ノ所有船ニテ貨物積卸ニ取扱フモノ

開拓使 府縣行	汽船	風帆	十一年 自一月至六月		同年 自七月至十二月		十二年 自一月至六月		比較
			艘	噸	艘	噸	艘	噸	
府縣行	三十五	五	五十五	四十三	四十四	四十九	九	艘	增
北海道	二十七	四	四十三	三	三十五	二	十	艘	減
各北地行	五	一	十二	三	九	二	艘	減	
運漕社	十	三	十	三	二	九	艘	增	
府縣行	十	三	十	三	二	九	艘	增	
北海道	十	三	十	三	二	九	艘	增	
各北地行	十	三	十	三	二	九	艘	增	
扱船	九	一	九	一	八	二	艘	增	
各地行	九	一	九	一	八	二	艘	增	
合計	六十九	六	六十九	六	六十八	二	艘	增	

右ハ汽船風帆船出港ノ大畧ナリ其貨物石數ハ分明ナラサルヲ以テ省略シ運賃及ヒ船客ノ概畧ハ左ノ如シ

十一年前半期
 船客 四千百五十三人
 運賃 金貳万。四百七十六圓

同年後半期
 船客 壹万。五百七十六人
 運賃 金四万三千貳百貳十壹圓七十四錢

十年前半期

船客 六千五百。壹人
運債 金三万七千七百六十九圓。貳錢

合計

船客 貳万二千貳百三十人
運債 金拾万四千四百六十六圓七拾六錢

運漕社ハ明治六年四月始テ函館ニ開業シ開拓使附属
船ノ貨物積載及乗客等ハ同社之ヲ負擔セリ又社船若
干ヲ各地ニ航行セシメ專ラ運輸ノ便ヲ圖レリ。

明治自十一年一月至十二年六月 三菱社汽船函館出帆ノ數

府縣行	四十八艘	五十貳艘	六十三艘	十五艘增
北海道	十三艘	貳十八艘	十壹艘	貳艘減
各地行	六十壹艘	八十艘	七十四艘	十三艘增
合計	六十壹艘	八十艘	七十四艘	十三艘增

右ハ出帆汽船ノ概略ナリ其貨物船客員數及ヒ運債ノ

概畧ハ左ノ如シ

十一年中輸出

貨物 貳拾万九千五百五拾九石
船客 五千貳百四拾壹人
運債 金貳拾貳万九千七百八拾九圓

同上 輸入

貨物 壹万五千五百五拾三噸
船客 四千九百七拾六人
運債 拾壹万四千七百七拾貳圓

十二年自一月至六月輸出

貨物 八百貳拾五噸
船客 三千貳百拾三人
運債 金拾万八千五百六拾五圓

同上 輸入

貨物 七千五百六拾六噸
船客 六千九百七拾六人
運債 金四万八千四百五拾九圓

合計

貨物	壹万九千九百四拾四噸 三拾六万八千九百拾七石七斗
船客	貳万。四百六人
運賃	金五拾万五千八百五十四

右三菱社、概略ナリ抑同社北海道、東京横濱ト、間ニ汽船ノ航海ヲ開シハ明治八年ニシテ逐年出入貨物ノ増殖スルガ為メ一二ノ汽船ヲ以テ普ク運輸ノ便利ヲ開進スルヲ得ス故ニ年々航海ノ度數ヲ増加シ碇繋汽船ヲ定ムルニ至ル前記ノ出帆負數ヲ以テ見ルモ十一年前半期ヨリ十二年前半期、多キ丁拾三艘ナリ貨物船客モ亦之ニ準シテ幾許ノ増加アルヲ知ルヘシ（期半區別ノ調査目下分明ナラズ）本年ニ至テハ一層北海道各地航海ノ便利ヲ圖リ青龍蓬萊芳野浪花ノ四汽船ヲ函館港ノ定繋ト為シ浪花丸函館青森ノ定期航海ニ

充テ隔日ニ往復セシメ外三船ヲ北海道各地ノ航海ニ備ヘ其他倉庫船ヲ常備シ後志國小樽ノ出張所ヲ設テ社員ヲ派出スル等或ハ本港物産賣買貨主ノ重ナルモノ數名ト輸送ノ順序運賃ノ定額ヲ結約スル等ニ就テ之ヲ見レハ該社ハ汽船將來運輸ノ方法ヲ開進セシメテ圖ルカ如シ

西洋形内國汽船ノ航海逐年増加スルノ前途ノ如ク十二年一月ヨリ六月マテノ出港ヲ總計スレハ百七拾艘ニシテ内六拾九艘ハ開拓使ノ付屬船貳拾七艘ハ運漕社々船及ヒ扱船七拾四艘ハ三菱社ノ汽船ナリ入港モ亦之ニ準ス此外内國汽船ノ出入ナレ西洋形風帆ハ出帆百五拾九艘ニテ内三艘ハ開拓使付屬船運漕社々船及ヒ扱船ニテ五艘（三菱社ハナシ）餘ノ百五拾壹艘ハ概テ函館

明治二十九年三月

人民所有ノ風帆船各地ニ出航スルモノト知ルヘシ西
 洋形汽船ノ出入港増加スルハ日本形船ハ勢ヒ減少セ
 サルヲ得ス近年既ニ其激候アリ數年ヲ去シテ著シキ
 影響ヲ及スニ至ルベシ

第八 勞力價付地所賣賃借家賃

本港ノ諸職工一日ノ賃錢ハ人員ノ増減ト年中ノ時期
 ニ依テ異同アリト雖氏其大概ノ尤ノ如シ

大工	一日ノ賃銀	三拾七錢五厘
左官	同	四拾五錢
屋根葺	同	三拾七錢五厘
船大工	同	五拾錢
沖大工	<small>(船大工ノ船船ニ乗組 ニ作スルモノヲ云フ)</small> 同上	六拾貳錢五厘
石工	同	六拾五錢
木挽	同	三拾七錢五厘
日雇		貳拾五錢乃至三拾錢

地所ノ價格ハ壹町若クハ一區内ニ於テ數十等ニ區別
 アリ其詳細ヲ知ラント欲セバ頗ル繁忙ニ亘ルヲ以テ

沽券面ニ依テ之ヲ大別スレハ左ノ如シ

西濱町ヨリ船場町ニ至ル海岸通り 百坪ニ付 自七百円 至貳百五十拾円

辨天町ヨリ地藏町ニ至ル海岸通り 百坪ニ付 自七百円 至拾貳円五十拾銭

天神町ヨリ上大工町ニ至ル山手通り 百坪ニ付 自七百五十拾円 至拾貳円五十拾銭

臺町 百坪ニ付 金拾貳円五十拾銭 但山手ハ壹円

谷地頭町尻澤邊町 百坪ニ付 自貳拾五円 至拾貳円五十拾銭

大森町 百坪ニ付 金五円 但沙漠拾銭

市街ノ地所貸賃ハ大凡上中下三等ニ區別スルトキハ

尤ノ如シ

上等 急年壹坪 自壹円 至七拾五銭

中等 同上 自六拾銭 至四拾銭

下等 同上 自貳拾五銭 至拾銭

但僻地ノ下等ハ一ヶ年壹坪ニ付五銭ヨリ三銭位ナリ

借家賃ハ家屋ノ大小新古土地ノ等位其他種々ノ關係

ヨリ貸賃ヲ定ムルモノアレバ之ヲ概定スルヲ得ズト

虽氏若シ普通ノ借家ヲ上中下ノ三等ニ區別スルトキ

ハ左ノ如シ

上等 一ヶ月 金拾圓乃至拾五圓

中等 同 金七圓乃至五圓

下等 同 金貳圓乃至壹圓

右下等ノ借家賃ハ五戸乃至十戸連續ノ長屋ニテ粗悪

ヲ極ムルモノアレ氏昨年来本港市街ニ此等ノ長屋ヲ

建設スルノ夥多ナリ本年一月ヨリ六月三十日迄ニ新

築スルモノヲ調査スルニ二十四大區ノ各町ニ五十九棟

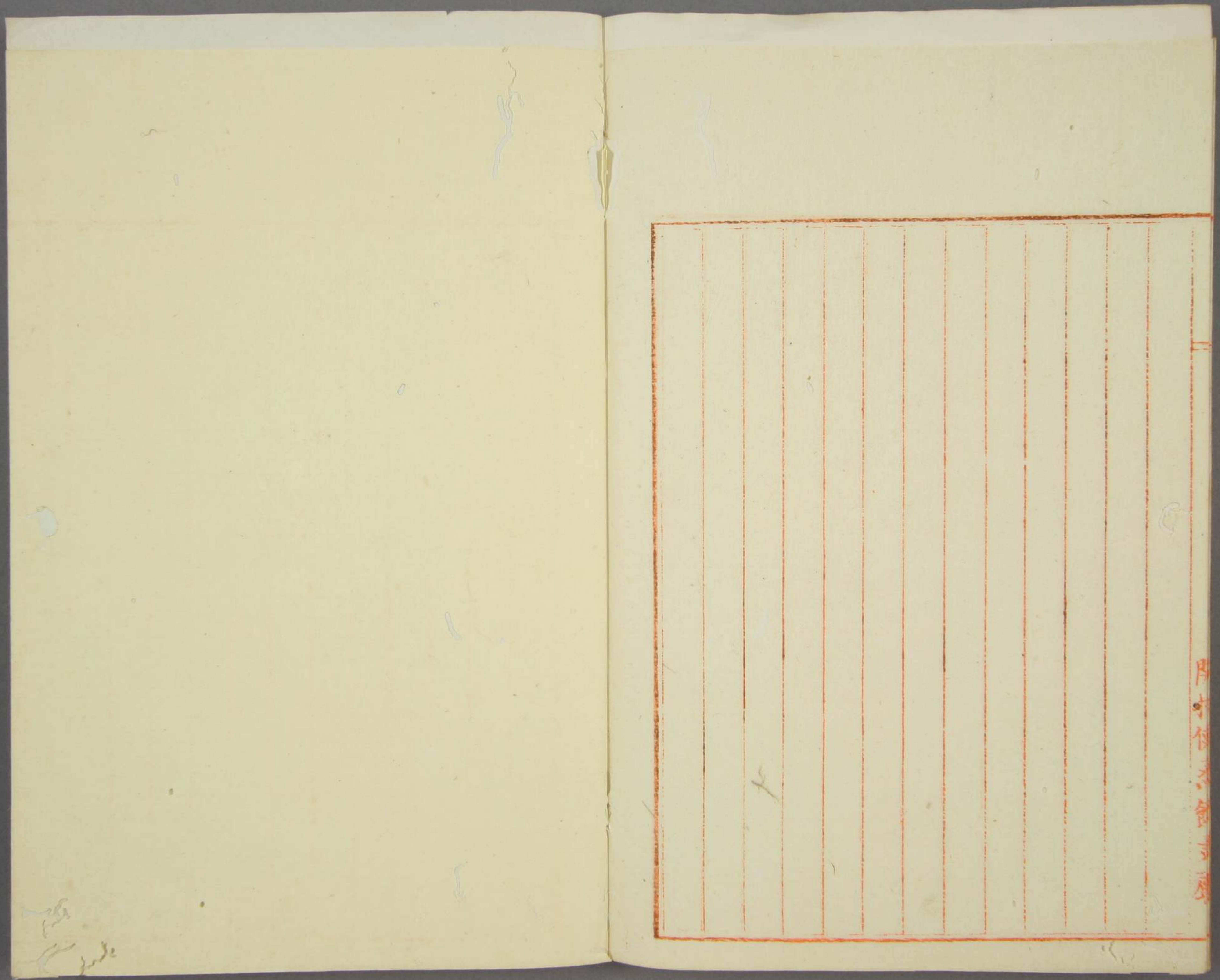
十五大區ハ三拾六棟十六大區五拾貳棟合計百四拾七

棟ニシテ此総戸數三百貳拾三戸ナリ現今建築ニ着手

スルモノ尚敷棟不足ニ因ハ景況アリ亦以テ戸口ノ増加ヲ徴スルニ足ルベシ

明治十一年 自一月至五月 函館港出入内國船舶統計表

九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	計
出 三 拾	入 三 拾	出 四 拾	入 四 拾	出 四 拾	入 四 拾	出 三 拾	入 三 拾	出 貳 拾	入 貳 拾
0	0	3	4	9	5	4	4	8	6
4	3	4	4	貳	貳	三	拾	拾	七
0	5	壹	六	七	七	0	八	九	貳
貳百八拾五	貳百五拾六	三百	三百拾	三百拾	三百拾	貳百九拾七	三百拾	三百拾	三百拾
5	6	貳	六	貳	貳	四	百	百	六
貳百七拾九	貳百九拾三	貳百八拾	貳百八拾	貳百八拾	貳百八拾	貳百五拾九	貳百拾	貳百拾	貳百拾
六	六	六	六	六	六	五	四	四	四
六百三拾四	六百拾四	六百拾八	六百拾八	六百拾六	六百拾四	五百拾五	五百拾三	五百拾九	五百拾



用寸價本館書房

